

# 旭川大学大学院教授 佐々木多喜雄 著 北海道「水田発祥の地」記念碑

## 13. 鶴川町「鶴川稲作発祥之地」

所在地 鶴川町字豊城414番地3

建立年月 1995年（平成7年）7月

鶴川町史（1968）には、明治25年（1892）、仁立内（現在の二宮）の水野重吉が5反歩（50<sup>坪</sup>）の水田を造成し、反当たり4俵の収穫を得たのが当町における水稻栽培の嚆矢といわれ…、と記されている。

一方、二宮部落史（1972）にはより詳しく記されている。これによると、移民は明治26年（1893）、大江常三郎が厚別から広島、福井両県出身者11名を誘って入地した。1戸当たり5町歩（5<sup>町</sup>）、成功期限5ヶ年で無償給付という、道庁の貸付制度であった。当時は昼尚暗い原始林で、米などは思いもよらず、芋、稗、野菜が常食であった。水野重吉氏が厚別から入地、赤毛の種籾を入手、約5反の水田をつくって5俵程度の収穫に成功したのが、当地の米づくりの始まりといわれる、とある。

水野氏の入地は明治27年と記されているので、稲作発祥年は早くてもこの年と考えられ、ここでは発祥年次を明治27年とした。

鶴川町市街から8線道路を北へ走り、大きな用水路を越えると二宮と豊城間の町道1号のT字路に出る。ここが豊城でそこを右折する。約40<sup>坪</sup>集落を過ぎ林が切れて少し開けたコヤチの沢と呼ばれる沢地の道路脇左手、路肩から5<sup>坪</sup>程入ったところに、白塗りコンクリート製、高さ1.5<sup>坪</sup>の標柱が建っている。町開基100年記念事業の一環として1995年（平成7）に鶴川町民会議による建立である。道端には人の背丈程もある雑草や小灌木が群生しているので、

